

過去からの脱却 自分の殻を破る

困難や問題に取り組んで行くには、その解決方法は、まずは「自己否定」しなければいけないのです。「自己」というのは、長い年月で様々な偏見(バイアス)を獲得していきます。つまり日々生活していくにつれて、良い面や悪い面、苔がついていくようなものです。つまり偏った主観、他者との意味のない比較や嫉妬などです。

学校教育に関して大きな問題が顕在しています。これを打破しないと日本の未来がないと感じます。教育は一般的に点数を伴う相対評価であるがゆえに、自分が他人よりどれくらい優秀かを証明するような切迫感に常に襲われます。そしてそれを評価するのが、テストの点であり、成績であり、進学する学校となります。知らず知らずのうちに、自分と他人を比較することが中心となり、自分の規範が自分とならず、他人となってしまう。このような環境では、自分の弱点を他人に見せることが恐怖となります。

会社においても、他人よりも自分のほうがいかに仕事ができるかが重要です。学校や会社で自分が他人より優れていることを評価するシステムになっていることが、個人個人に自然と心理的な鎧を作らせ、個人個人はこの鎧やフィルターを通してでのみ交流します。同僚と仲良くしているようで、どこか心の底で、自分と他人を比較しているのです。その比較の大小に苦しみます。

経営者には全く逆のことが要求されます。「自己」にとらわれてはいけません。まずは自己を忘れる、自己否定を試みるのが重要です。自己否定をすると、前述したような、バイアスの苔や心理的鎧やフィルターが除去されます。「眼から鱗が落ちる」との諺があります。眼に張り付いた鱗が外れて、真実が観えるようになるのです。

道元の正法現蔵

仏道を習うということは、自己を習うことである。
自己を習うということは、自己を忘れることである。
自己を忘れるということは、万法に証せられることとなる。

道元は、まずは「自己実現」そして「自己超越」することが重要だと述べています。13世紀でありながら革新的です。この考え方は、20世紀の心理学者アブラハム・マズローと同一です。

どうして「自己否定」することがそれほど重要なのか？
大自然は我々を、ワンステップ上に行くためには、自分の殻を破らなければいけないようにデザインしました。昆虫でも蛇でも自分の殻を破り、成長していきます。生物が生まれるには、魚にしても動物にしても人間にしても、必ず生みの苦しみがあります。我々が経営者として成長していくためには、必ず痛みを伴いながら過去をアンラーニング、脱却するプロセスが必要です。

自己否定すると、真の自分に気づきます。これは自分の強みや弱み、そして性格などすべてを包含した真の自分です。これに気づけば、もう我々は他人に自分がいかに優秀かを証明する必要はないのです。砕けた言い方をすれば「自分の馬鹿さがわかって、それが他人に見え見えならわざわざ隠す必要はないので逆に楽」。

「経営者が社員達より優れている」と、自己満足でいかに威張ろうと、そんなものは会社のプラスにはなりません。自分より営業に、技術に、製造に、人事に優れた社員がいるから、かれらに仕事をどんどん委託して、より良いパフォーマンスを求めていくべきです。そして彼らにも仕事を通じた生き甲斐を感じてもらいます。これをエンパワメントと呼びます。いかに社員を信頼し仕事をしてもらうか、社員の協力と信頼を得ていくかが重要な鍵になります。